

# 「ね」の習得

2000/2001長期研修OPIデータの分析

柴原 智代

〔キーワード〕 ACTFL OPI、ポライトネス理論、「ね」の機能、「ね」の習得順序、非用  
〔目次〕

はじめに

1. 先行研究

1.1 「ね」に関する先行研究

1.2 第2言語習得領域での先行研究

2. 方法

2.1 調査の対象

2.2 調査の方法

2.3 日本語教科書における「ね」の扱い

3. 結果

4. 考察・提言

おわりに

## はじめに

日本語国際センターの海外日本語教師長期研修(以下、長期研修とする)では、1997年度以降来日時(9月)と帰国直前(翌年6月)にACTFL OPIテスト<sup>(1)</sup>を実施している。本稿では、筆者がテストとしてOPIテストを行った2000年度長期研修生<sup>(2)</sup>のOPIテストの文字化資料を用いて、「ね」の習得状況をケーススタディとして検証する。

「ね」は適切に使わないと聞き手は違和感や不快感を覚えるが、研修生は、「先生は髪を切りました」「先生、私はゆうべお風呂に入りましたね」等といった誤用をする。前者の場合は、「ね」が欠落しているために「それがどうかしましたか」と聞きたくなるし、後者は「ね」がついているために、「私はあなたがお風呂に入ったかどうか知りません」と言いたくなってしまいうのである。「ね」は心情・態度を表すため、もともと運用が難しい項目の一つである上に、最近は教科書で扱われている基本的な機能とは異なるタイプの「ね」が多用されているように見うけられる。9ヶ月間日本に滞在する長期研修生は、どのような「ね」を習得し、あるいは習得しないのであろうか。本稿は、長期研修生の「ね」の習得状況を分析し、今後の授業の一助とすることを目的とする。

## 1. 先行研究

### 1.1 「ね」に関する先行研究

従来国語学は言語形式が本質的に持つ内在的意味を分析対象とし、終助詞の「ね」は感動・判断・念押し・疑問を、間投助詞の「ね」は念押しを表すとしてきた。日本語学では、使用時の終助詞の効果に目が向けられ(上野1972、大曾1986、陳1987)、「ね」は話し手と聞き手の判断・認識が同じであるという前提で念押しをするとされた。自然発話のデータを分析した伊豆原(1993)は、「ね」の機能を「情報の共有化・一体化(=聞き手に話し手と同じ気持ち・情報を共有させようとする話し手の働きかけ)」だとしたが、これは従来の説以上には踏み込んでいない。しかし、宇佐美(1997)は、Brown & Levinsonのポライトネス理論<sup>(3)</sup>を援用して、「ね」に関して運用ルールともいべき機能の分類を提案した。

【表1】は「ね」に関する宇佐美の5つの分類を筆者がまとめたものであるが、紙幅の都合上例を一部省略した。この分類に従うと、「念押し」の「ね」とひとまとめにされていた終助詞「ね」は、「会話促進」、「発話緩和」及び「発話内容確認」に、間投助詞の「ね」は「注意喚起」及び「発話埋め合わせ」に分けられるであろう。宇佐美の分類は、会議・雑談場面による使い分け、対人調節機能(ポライトネス)使用頻度による適切さ、出現場所などの点から細かく分類・分析され、運用に有益な目安を与えている。特に、聞き手が知らない情報を提供・説明するという一種優位な状況の中、「ね」をつけることで口調を緩和する「発話緩和」の「ね」は、テレビ等でよく耳にするものの、従来の「情報の共有化・一体化」説では説明がつきにくかったものであり、それに合理的な解説を加えた点で評価できる。

宇佐美の分類に従うと、「はじめに」であげた研修生の誤用例は、2例とも基本的な使用法である「会話促進」に相当し、前者は「ね」がないために話し手が聞き手と意見・考えを共有しているという認識を確認できないので「髪を切った」という話題で会話を進められないし、後者の場合は、話し手が聞き手と共有していない話題で共通認識を確認させられ会話が進められていくことに違和感が生じたと思われる。

【表1】

<p>会話促進( Facilitating )</p> <p>【例】飛行機に酔う人ってあんまりないよ<u>ね</u>。</p>	<p>・いわゆる同意の「ね」。話し手が聞き手と意見・考えを共有していると「想定」して使用する。<b>実際に共有していなくても使用され、結果的に会話を促進させる機能を果たす。</b></p> <p>・この「ね」は会話の流れを作りだし、会話を促進させる。取り去ることも可能だが、文意が変わったり、会話の流れがぎこちなくなる。</p> <p>・命題内容が終わる文末に出現する。</p> <p>・相手に共感を示すポジティブ・ポライトネスとなっている。</p> <p>・親しい者同士の雑談などカジュアルな会話に典型的に出現する。カジュアルな会話の「ね」のほとんどがこの機能となる。</p>
---	---

## 「ね」の習得

<p>注意喚起 (Attention-getting)</p> <p>【例】ほんとうに連続する人はね、岩波新書はね、2時間でよまなきゃいけないんだよね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手が聞き手を自分の話題に引き込むために使用する。</li> <li>・自分の<b>発話の順番を保持する機能</b>を持つ。</li> <li>・この「ね」は、会話促進の「ね」と違い、取り去っても文意が変わったり、会話の流れがぎこちなくなったりすることはない。逆に多用すると、子供っぽい、なれなれしい、くだけすぎ等の印象を与える。それは、この「ね」が話題に引き込むことを要求する自分中心の話し方だからである。カジュアルな会話での使用頻度は、100発話に4、5回程度の割合が適切のようである。</li> <li>・語末や句末レベルに出現する。</li> <li>・自分中心の機能であるため、親しい者同士の雑談など<b>カジュアルな会話</b>に出現し、会議場面ではほとんど使われない。(会議場面ではそのかわりとして「～ですね」が注意喚起及び発話順番の保持の機能も担う)</li> </ul>
<p>発話緩和( Softening )</p> <p>【例】(前略)...揃ってくるまで、えーと、そちらにはお渡しできないんですね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手が知らないであろうと話手が判断する情報を提供するときにも用いられ、<b>あえて「ね」を用いて相手との情報の共有性を示唆することで、発話を緩和する機能</b>を持つ。聞き手が知らない情報を提供、説明するという一種優位な状況の中、「ね」をつけることで口調が緩和されている。</li> <li>・取り去ると言い切った印象を与える。</li> <li>・聞き手の感情や心理に配慮して使用されるので、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーとして働く。</li> <li>・従って、<b>会議場面</b>のほうにより多く出現する。</li> </ul>
<p>発話内容確認( Confirming )</p> <p>【例】じゃあ、ちょっと説明したほうがいいですね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手が自分の発話内容に確信を欠く場合に、聞き手に確認する。</li> <li>・従って、確認する必要がある会議場面のほうにやや多く出現する可能性が高いが、カジュアルな会話でも出現する。</li> <li>・ポライトネスの点ではニュートラル、つまり対人調節機能を担っていない。</li> </ul>
<p>発話埋め合わせ ( Verbal-filler )</p> <p>【例】えー、にゅ、入稿はですね、2回ぐらいに分けたいと...(後略)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いいよみやことばを探すフィルターとして使用される。</li> <li>・もともと 発話緩和及び発話順番の保持の機能を改まった場面でも使用できるように「～ですね」と変化し、習慣化したと考えられる。</li> <li>・ことばを選んで話す必要性が高い<b>会議場面</b>のほうに典型的に出現する。</li> <li>・発話を緩和するネガティブ・ポライトネス・ストラテジーとして働く。</li> </ul>

### 1.2 第2言語習得理領域での先行研究

第2言語習得理論に関しても90年代以降、形容詞過去形、テ形、格助詞、指示詞等の研究成果が報告され、多くの場合一定の習得順序があり、教育によって習得のスピードは変わるがその順序は変わらないこと、隣接していない段階を飛び越えて習得することは難しいことなどがわかってきている(吉岡1999)。また、ACTFL OPIの文字化資料KYコーパス<sup>(4)</sup>が広く一般に提供されて以降、それを使用した習得研究も出てきたが、「ね」に関しては分類そのものが議論の対象になっていることもあり、第2言語習得理領域での論文はまだ見当たらない。

## 2. 方法

### 2.1 調査の対象

本稿では、筆者がテスターとしてOPIテストを行った2000年度長期研修6名全員を調査の対象とした。詳細は「3.結果」に譲るが、6名それぞれが独自の習得の状況を示しているようでありながら、他の研修生とも共通する課題をはらんでいると思われたので、6名全員について述べることにした。以下6名をそれぞれ、abcdefで表す。

6名のOPIテストの結果は【表2】の通りである。6名のOPIテストの評価は、中級 中レベルから、上級 中レベルに位置している。「中級 中」とは、自分に関する話題(自分や家族、日常生活、趣味)についてなんとか対応できるレベルである。「上級 中」になると、話題は、職場・学校や最近の社会のできごとなど一般的な事柄に広がり、状況説明など長い話を展開でき、予想外の事態にも日本語で対応できるようになるレベルである。

6名のうち2名(b及びd)は9ヶ月間日本に滞在していても同じレベルにとどまっているが、これは会話能力が向上しなかったということの意味するわけではなく、OPIテストというある尺度においてはレベルに変化がなかったことを意味する。OPIテストのレベルには幅があり、上級 中といっても限りなく上級 下に近い場合もあれば、上級 上に近い場合もある。実際、b及びdは、来日時に比べ帰国時のインタビューのほうが発話量は多い。しかし、タスク達成度の質を見ると、OPIガイドラインに照らして上のレベルに評価できるほどの大きな変化はないということである。

【表2】

	OPI評価(来日時2000年9月)	OPI評価(帰国時2001年6月)
a	中級 中	上級 下
b	上級 中	上級 中
c	中級 中	上級 中
d	中級 上	中級 上
e	中級 中	上級 下
f	中級 中	上級 下

### 2.2 調査の方法

上述の6名の来日時及び帰国時のOPIの文字化資料を作成し、宇佐美(1997)の分類にもとづいて分析した。第2言語習得理論では、誤用と正用の間は連続体であり、その間に正用への一過程である中間言語が存在するとしている。従って、本稿でも文意が不明のもの、誤用と思われるものもできる限り分析の対象とした。但し、「そうですね」は、ひとまとまりであいづちやフィラーと見なし、今回は分析対象として除いた。テスターのあいづちが入っても、発話順が保持され

## 「ね」の習得

ていれば「ね」のあとも文字化資料を記載し、発話が交代していれば記載しないことで区別し、「ね」が使用されている発話ごとに番号をふった。

また、被験者6名を各abcdefで分け、OPIテスト実施日時(2000年9月と2001年6月)をそれぞれ9と6と標記し、-のあとは「ね」を使用した発話の通し番号とした。例えば「a6 01」は研修生aの帰国時点でのOPIで最初に「ね」を使用した発話となる。

仮説として次の3点を立てて、分析を行った。

- 1) 来日時よりも帰国時の方が、「ね」の機能を多様に使うようになる。
- 2) 会話促進の「ね」の使用頻度はもっとも高い。理由は、 は「ね」のプロトタイプ的な使い方であり、わかりやすいこと、学習の可能性も高いこと、母語話者が「ね」を使う際にももっとも多い機能であることによる。
- 3) 発話緩和の「ね」の使用頻度は少ない。理由は、 は現実社会からのインプットはあ  
るはずだが、教科書等で知識として提示がないので強化されにくいことによる。

### 2.3 日本語教科書における「ね」の扱い

「ね」に関して、研修生は教科書からどのようなインプットを受けているのであろうか。長期研修生は、さまざまな教科書に接しているので、一例として長期研修生全員に配布された『みんなの日本語 ・ 』(1998年出版)を取り上げ、「ね」の初出課、例文(各課の会話を対象)、文法解説を調べた。本書は1998年出版であり、それまでの研究成果を反映させ、コミュニケーション能力育成に留意していると推測されたので、前身とも言える『しんにほんごのきそ ・ 』(1990年初版)と会話部分の「ね」の使用状況を比べてみたところ、使用数も増え、文法説明にも改善が見られた。

なお、どれを 発話緩和の「ね」に分類するか迷うものもあったが、「よ」に置き換えても適切だと思われるものを選んだ。

【表3】

みんなの日本語	「ね」の各機能の初出課と例文
	会話促進：4課P35【練習C】A：毎日ですか。B：はい。A：大変です <b>ね</b> 。
	注意喚起：なし
	発話緩和：13課 A：どこへ行きますか。B：今日は日本料理が食べたいです <b>ね</b> 。
	発話内容確認：A：やまと美術館の電話番号をお願いします。B：やまと美術館です <b>ね</b> 。 発話埋め合わせ：なし
	ね is attached to the end of a sentence to add feeling to what the speaker says. It shows the speaker's sympathy or the speaker's expectation that the listener will agree. (例文：毎日大変ですね。/...871-6813ですね) (翻訳・文法解説書英語版)

みんなの日本語	初出以降の「ね」の提出課
	会話促進：5、6、7、8、9、10、11、12、13、15、18、21、22、24、25( )26、32、36、37、38、39、42、43、44、45、46、47、48、49、50 発話緩和：( )34(わたしがする通りにしてくださいね)、38(あまり売れませんでしたけどね)、42(僕はあまり考えたことはありませんね) 発話内容確認：14、23( )30

しんにほんごのきそ	「ね」の各機能の初出課と例文
	会話促進：4課【会話】毎日 大変です <u>ね</u> 。 注意喚起：なし 発話緩和：32( かげですね。/お風呂に入らないほうがいいです <u>ね</u> 。 ) 発話内容確認：27(2つ目の角を右です <u>ね</u> 。 ) 発話埋め合わせ：なし <i>ne is put at the end of a sentence to add feeling or to seek agreement form the listener ( ne is not used in a monologue )</i> ( 例文：それは大変ですね。 /いいシャツですね ) 文法解説書英語版 )
	初出以降の「ね」の提出課
	会話促進：7、8、13、14、18、19、22、24、25( )27、28、33、35、36、37、38、39、40、41、43、45、46、47、48 発話緩和：( )36( ...感想が書いてありません <u>ね</u> 。 ) 発話内容確認：( )27、49

【表3】を見ると「ね」は、第4課という早い時点で出てくること、そして、それ以降会話に不可欠な要素としてほとんどすべての課で使用されていることがわかる。文法説明を見ると、第13課で出てくる「今日は...ね。」は( 発話緩和 )の「ね」は、この文法説明をかなり敷衍して理解しないといけない。つまり、話し手(B)は自分が日本料理を食べたいという情報を聞き手(A)が共有しているという前提で話していると理解するのは難しい。自分についての情報であるから、「今日は...よ。」といってもいいところを、発話緩和していると説明したほうが理解しやすいであろう。ここに書かれている文法解説は、「ね」のプロトタイプ機能の 会話促進には適切ではあるが、発話緩和に関しては別の説明が必要であろう。この 発話緩和の「ね」は、最近日本人の自然発話でもテレビ等でもよく耳にするので、多くの学習者は、発話緩和の「ね」の明示的な学習機会はないものの自然なインプットは受けているのではないだろうか。注意喚起及び 発話埋め合わせの「ね」については例文もないが、これらは話し言葉の要素がきわめて強いので、どの初級教科書でもとりあげる可能性は低いだろう。

### 3. 結果

a~eの「ね」の使用例はそれぞれ【資料a】~【資料e】に記載した。個人が特定されるような言及(国名、地名等)は とした。

#### 3.1 研修生aの場合

aは9ヶ月間でOPIは中級-中から上級-下に伸びた。【資料a】を見ると、「ね」の使用総数は変わっ

## 「ね」の習得

ていないが、使用した機能の変化は著しい。来日時には次のように 注意喚起の「ね」ばかりで、それも1か所を除いて、すべて名詞のすぐあとに「ね」を使用している。

a9 09 本は☑️好きです。毎週☑️5冊ぐらい読みます。

a9 12 先生は☑️いままで☑️どのくらい日本語を教えているんですか。

これは、OPIの突き上げ<sup>(5)</sup>にあり、ことばに詰まって 発話埋め合わせとして使用していることが推測できる。しかし、aは「～ですね」という形態を使えないために、聞き手は 注意喚起として聞き取る。その結果、宇佐美の指摘する適切な割合を超えて 注意喚起を多用することになり、「なれなれしい」印象を与えてしまっている。9ヶ月後には、 と使用する機能が増えているが、 は使用されていない。しかし、 の「～ですね」はこの時点でも、a6 11のように敬体「です」を伴わないで使用されており、変化が見られない。

a6 11 例えば☑️、あのう、なんか...

### 3.2 研修生bの場合

bは来日時帰国時ともに上級-中でOPIに変化がなかった。【資料b】を見ると、「ね」の多用が特徴的で、それは9ヶ月後もあまり変わらない。「ね」を過度に使用する学習者は、母語を問わず見られる。bが発話した「ね」を見ると、本人の意図というより結果的に 発話緩和に分類されるものが多い。 発話緩和として成功しているときも(b9 02)あれば、違和感を生じるとき(b9 03)もある。違和感の原因の一つは形態の問題であろう。「ますね」よりも「んですね」のほうが、「聞き手が知らないであろうと話し手が判断する情報を提供」する機能として違和感がないようである。これは、「ん」のもつ事情説明の効果のせいであろう。また、話題を切り出すときには適切だが、同じ話題で続けるときに使用すると違和感の一因になりそうである。(b6 04)のように単文が続くときに「ね」も続けては、多すぎて機能が伝わりにくい。bは、来日時は結果的にせよ の発話緩和がほとんどだったのが、帰国時には と 会話促進が同程度使用されている。意識的な使い分けができるようになったのであろうか。

b9 02 語という土地のことばがあるんです☑️。でも...( 発話緩和)

b9 03 日本語と 語はよくにています。尊敬語とか 語にあります☑️。例えば自分が行くとき...( 発話緩和?)

b6 04 例えば、私の国はものが100円というのは、私の国はだいたい7000Rです☑️。ですから高いと思ったです☑️。7000Rは、2回ぐらい食べられます。でも日本だと100円だったら、食べられるものはパンだけです☑️。でもほかのものも100円ショップとか...そういう安いものが見られるんです☑️。

( 発話緩和 ) ( 「んですね」ならば 発話緩和 ) ( 会話促進 ) ( 会話促進 )

「ね」を多用する傾向のある研修生には、機能の違いを提示し、意図にあった使用を意識化させたい。

### 3.3 研修生cの場合

cは9ヶ月間でOPIは中級-中から上級-下に伸びた。【資料c】のc9 06のように、来日時はa同様、ことばに詰まって 発話埋め合わせとしての「ね」を使用している例が多いが、「です」が見つからないので、結果として 注意喚起として受け取れる。

c9 06 その前の恋人はね、どうして、女性に...最後はご主人はなくなりました。

その男性はね どうでしょうか。でも女性がね、その女の人が...

(全て 注意喚起)

そのほか、 会話促進及び 発話内容確認の「ね」が使用されている。帰国時にも、 会話促進及び 発話内容確認の「ね」が使用されているが、来日時のような 発話埋め合わせ「ね」は見られない。運用力の向上によって発話が流暢になったことが大きい。但し、帰国時OPIで話題が老人福祉や政治の問題になると「ね」の使用が少なくなった。cのレベルでは難しい話題であるので、自分の意見をのべるのに精一杯になり、相手の反応を見ながら話を進めて行けなくなったことが理由だと思われる。「ね」がなくてもさほど違和感はないが、一方的な意見表明に聞こえる可能性がある。

### 3.4 研修生dの場合

dのOPI評価は2回とも中級-上で変化はない。【資料d】のように「ね」の使用は来日時、帰国時ともに1回にとどまる。その理由としては、海外では「ね」の習得が困難なこと、テストを意識し緊張しているために、できるだけまちがえないように答え方も消極的で、そのために習得が難しい項目の「ね」をあえて使わなかったことが考えられる。習得が難しい項目の使用をあえて避ける「非用」という現象はよく見られるが、dの場合、9ヶ月たってもあまり習得が進んでいないようなので、このようなケースでは使わないと習得もないことを意識させたほうがよいであろう。aやcは、ことばに詰まると発話埋め合わせとして「ね」を使用していたが、dはそのかわりに来日時・帰国時とも「はい」「うん」を使用しているので、「ね」の使用がさらに少なくなる。(例 日本人の若者と、比べると、うん、日本人の化粧しています、はい。)

来日時OPIでdは、(日本の電車に乗ったことはないと言った後で)「でも高いです」と言っているが、聞き手としては「高いですね/よね」( 会話促進 / 発話内容確認)が期待される。また来日時OPIの唯一の例d9 01は、断りの理由を切り出すのに使用しているが、適切な使用だと見なすのは難しい。もしこれをプロトタイプ的な使用方法である同意のもとに話を進める( 会話促進)とし

## 「ね」の習得

で使用しているのであれば、聞き手は不快感を覚えるであろう。

d9 01 (ロールプレイ) まりこさん、今日の約束は私は行けなんです $\square$ ね。(ええー)(誤用)

### 3.5 研修生eの場合

eは9ヶ月間でOPIは中級-中から上級-下に伸びたが、来日時・帰国時とも「ね」の使用例はなく、「ね」を使用した方が適切と思われる場合でも言いきりで終わっている。そのため、一方的に聞こえる発話が続く。しかし、終助詞がまったく使われていないわけではなく、「よ」は以下のように来日時に使用例がある。

テスター：京都のような古い町はどこですか。e： ですよ $\square$ 。

テスター：ソビエト時代と比べてどちらがいいですか。e： 独立はいつでもいいですよ $\square$ 。

eはほとんど「ね」を使用していない点ではdと同じだが、eは帰国時のOPIでは終始リラックスしたムードで答えており、緊張している様子は見られない。従って非用とも思われない。eは「そうですね」というあいづちは使っており、インターアクションをとろうという意図があるので、「ね」が適切に使用できるようになれば、さらに対話的になるだろう。

### 3.6 研修生fの場合

fも9ヶ月間でOPIは中級-中から上級-下に伸びた。来日時には「ね」の使用例はなかったが、帰国時には、 会話促進や 発話緩和として使用しているなど、a同様「ね」に関しても変化がある。しかし、来日時でも帰国時でも、それぞれ使用したほうが適切な下のような場合でも使用していないので、まだまだ十分とはいえない。

f:( テスターの仕事について )それはおもしろい仕事 $\square$ 。( 会話促進の「ね」がほしい)

f: 長い間鎖国でした $\square$ 。明治時代から日本は開きましたけど ( 発話内容確認の「ね」がほしい)

## 4. 考察・提言

6名の「ね」の使用例を、誤用、文意不明をのぞいてまとめると【表4】のようになる

【表4】

	来日時2000年9月	帰国時2001年6月
a	会話促進 1 注意喚起 13	会話促進 6 注意喚起 6 発話内容確認 2
b	会話促進 1 発話緩和 7 発話内容確認 1	会話促進 15 発話緩和 16
c	会話促進 3 注意喚起 5 発話内容確認 2	会話促進 3  発話内容確認 1
d	(分類不可能)1	会話促進 1
e	なし	なし
f	なし	会話促進 4 発話緩和 1

来日時の 注意喚起、 発話緩和は、機能を適切に使用したというよりことばに詰まったの使用であることを考慮すると、帰国時の方が、「ね」の機能を多様に適切に使うようになっているのは確かである。うちわけを見ると、 会話促進の「ね」がもっとも多く使用されている。従って、本稿の6名に関しては、3つの仮説はほぼ支持されたと考えてよいだろう。

意外だったことは、9ヶ月間滞在しても「ね」の使用例がほとんどなかった研修生が2名いたことである。プロトタイプから遠い機能はもちろんのこと、「ね」そのものの習得が難しいことを再認識した。『みんなの日本語 ・ 』を見てわかる通り、「ね」は会話を進めるにあたって不可欠な要素である。今後、さらに意識的・明示的な指導が必要だと思われる。 発話緩和の「ね」は、テレビ番組など生教材に出てくる可能性が高いので、そのような機会を利用したい。また、ことばに詰まって使う「ね」は、敬体「です」をつけないと「なれなれしい、子供っぽい」印象になってしまうので、今後來日時のOPIでそのような例が見られたら、早い時点での指導が必要であろう。

## おわりに

今回の研修生は、来日時のOPI評価で中級-中レベルが多かった。このレベルはテストの質問に答えるのが精一杯で、モダリティ表現を使うのは困難なので、「ね」が適切に発話できるようになるには、上級以降という仮説も立てられる。また、プロトタイプに遠いほど習得順序は遅いと

## 「ね」の習得

いう仮説も厳密な検証が必要である。さらに、「ね」の機能を適切に使うにはイントネーションも重要な要素であると思われるので、これらはあわせて今後の課題としたい。

研修生は 発話内容確認「ね」に関して、「ですよね」を用いていた。宇佐美は、この「ね」には対人調節機能はないとしているが、中北(2000)は、「コピーを10部でしょう？ / コピーを10部ですよ / コピーを10部ですよね」の待遇上の制約を指摘している。「ね」の使用が複雑だからといって、簡単に「でしょう」や「じゃないですか」に代替させることはできないことは明らかで、発話内容確認の表現についてはまた別途分析の必要があるだろう。

### 〔参考文献〕

- 伊豆原英子(1993)『「ね」と「よ」再考 「ね」と「よ」のコミュニケーション機能の考察から』『日本語教育』93号 103-114
- 上野田鶴子(1972)『終助詞とその周辺』『日本語教育』17号 62-77
- 宇佐美まゆみ(1997)『「ね」のコミュニケーション機能とディスコース・ポライトネス』『女性のことば：職場編』ひつじ書房 241-268
- 大曾美恵子(1986)『誤用分析』『今日はいい天気ですね。』『はい、そうです。』『日本語学』9月号 91-94 明治書院
- 陳 常好(1987)『終助詞 話し手と聞き手の認識のギャップをうめるための文接辞』『日本語学』10月号 93-109 明治書院
- 中北美千子(2000)『談話におけるダロウ・デショウの選択基準』『日本語教育』107号 26-35
- 牧野成一他(2001)『ACTFL OPI入門』アルク
- 吉岡 薫(1999)『第2言語としての日本語習得研究 現状と課題』『日本語教育』100号19-32
- Brown P and Levinson.S(1987)Politeness : Some universals in language usage. Cambridge University Press

### <テキスト>

- 『みんなの日本語 ・ 』教科書及び翻訳・文法解説書英語版(スリーエーネットワーク、1998年)
- 『しんにほんごのきそ ・ 』教科書及び文法解説書英語版(スリーエーネットワーク、1990年初版、1995年第10刷)

### 〔注〕

- (1) ACTFLは、The American Council on the Teaching of Foreign Language(アメリカ外国語教育協会)の略称である。1967年に設立され、現在、初等～大学までの外国語教師が加入しており、会員数

約1万人といわれる。ACTFLで開発されたACTFL OPI( Oral Proficiency Interview )は、資格を持つテスターが一般能力基準を参照しながら、対面のインタビュー形式で外国語学習者の会話のタスク達成能力を判定するテストである。

<sup>(2)</sup> 研修期間：2000年9月18日～2001年6月15日

<sup>(3)</sup> 「他者に理解・共感されたいという欲求としてのポジティブ・フェイスとそれに訴えかけるポジティブ・ポライトネス・ストラテジー」及び「他者に邪魔されたくない、立ち入られたくない欲求としてのネガティブ・フェイスとそれに配慮するネガティブ・ポライトネス・ストラテジー」があるとした。そして、フェイスを脅かす可能性のある行為をFTA ( Face Threatening Acts )と呼びこのFTAの度合いが高くなるほど、よりポライトなストラテジーが必要になると考えている。

<sup>(4)</sup> 90人分のOPIテープの文字化資料。90人の母語別内訳は韓国語、中国語、英語各30人。30人のレベル別内訳は初級5、中級10、上級10、超級5。

<sup>(5)</sup> ACTFL OPIでは運用力の上限を決める「突き上げ( Probes )」を頻繁に行う。

## 「ね」の習得

### 資料編【資料a】

来日時2000/9(中級 中)

- a9 01 場所はね、 の、あの、南に、南のほうに、 はね、ちょっと大陸ね、  
の近くにある島国です。( 注意喚起)
- a9 02 有名な場所...いろいろたくさんありますね。例えば、南の方に...( 注意喚起)
- a9 03 高さはね20メートルくらいあります。( 注意喚起)
- a9 04 私はね首都に住んでいるから、( 注意喚起)
- a9 05 休日はねあまりうちを出ていません。テレビを見たばかり...( 注意喚起)
- a9 06 サッカーはねみんなもっていますから( 注意喚起)
- a9 07 ボールはね、あのう、相手のなんという、日本語ではわからない( 注意喚起)
- a9 08 時間はね90分ぐらい、( 注意喚起)
- a9 09 本はね好きです。毎週ね5冊ぐらい読みます。( 注意喚起)
- a9 10 宗教のほとんどバイブルね、バイブルよく読みます( 注意喚起)
- a9 11 主な宗教はね、キリスト教、58%ぐらいね、( 注意喚起)
- a9 12 先生はねいままでねどのくらい日本語を教えているんですか。  
...経験がありますよね。( 注意喚起)( 会話促進)
- a9 13 先生はねどんなタイプな人が好きですか。( 注意喚起)

帰国時2001/6(上級 下)

- a6 01 あの今の研修生の中で女性が一番多いですね。<んん>ときどき女性と...( 注意喚起)
- a6 02 少し考えればやっぱり外国人ですよね。( 会話促進)
- a6 03 いいにくいですよね。( 会話促進)
- a6 04 私はショック受けたけどみんなといい関係がありますね。( 文意不明)
- a6 05 国にいたときいろいろな外国人会いますね。<んん>日本語を勉強している外国人...  
( 注意喚起)
- a6 06 日本人は忙しいとわかっていますね。で、日本人は本当に忙しいでしょうか。( 文意不明)
- a6 07 例えば私はね、なんとか、あのう新宿にいったときパチンコ屋さんはすごくいっぱい...いますね。<んん>で、ああ、やっぱり日本人は忙しいですね。( 注意喚起)  
( 会話促進)( 会話促進)
- a6 08 最近いつも教育の問題がでできますね。日本人のサラリーマンは時間がない...  
( 会話促進)

- a6 09 サラリーマンがあちこちにいますよ[ね]。だからどうして日本人が時間がないといつも言われていますけど、本当は時間があります[ね]。(注意喚起)(発話内容確認)
- a6 10 日本の会社は遅くとも8時9時、遅くとも9時ごろ終わります[ね]。(さあ、どうでしょうか)私は例えば...(注意喚起)
- a6 11 例えば[ね]、あのう、なんか、毎年、毎年か、日本のシステムはわからないけど、給料はだんだんあがります[ね]。(注意喚起)(会話促進)(発話内容確認)

【資料b】

来日時2000/9(上級 中)

- b9 01 日本だと1時間新幹線で行きますよ[ね]。でも の人が...(発話内容確認)
- b9 02 語という土地のことばがあるんです[ね]。でも...(発話緩和)
- b9 03 日本語と 語はよくにっています。尊敬語とか 語にあります[ね]。例えば自分が行くとき...(発話緩和)??
- b9 04 第1外国語としては英語です[ね]。第2は今のところ日本語なんです。(発話緩和)
- b9 05 今私の大学には14人の先生がいます[ね]。その中に8人が進学している。だから学生がかわいそうです[ね]。(発話緩和)??(会話促進)
- b9 06 はやっぱりバトミントンでメダルがねらっています[ね]。前のアトランタオリンピックの...のために使います[ね]。無駄なお金だと思います[ね]。(発話緩和)??、誤用?、(発話緩和)

帰国時2001/6(上級 中)

- b6 01 一番楽しかったものは日本の旅行です[ね]。この前の北海道行ったり、関西の方に旅行することと友達のいっしょに行動して旅行したことは、一番楽しかったです。一番つらいというかここでは夜になると寝られない、あります[ね]。だんだん暑くなったら私寝る時間は遅くなります。...気候が違うので寝る時間が遅くなりました。(発話緩和)(発話緩和)?
- b6 02 私政治が好きです[ね]。...日本のような経済成長の中で勉強したものがいっぱいあります[ね]。一番関心があったのは安いものがいっぱい、というのは一番興味があります[ね]。例えば私の国は高いと感じている。でももともとは高いものですけど、日本の価格値は高い、でも私の国は高いと思った。だからお金の00がいっぱいです[ね]、私の国では。(発話緩和)(発話緩和)(発話緩和)(会話促進)??

## 「ね」の習得

- b6 03 例えば、私の国はものが100円というのは、私の国はだいたい7000Rです[ね]。ですから高いと思ったです[ね]。7000Rは、2回くらい食べられます。でも日本だと100円だったら、食べられるものはパンだけです[ね]。でもほかのものも100円ショップとか...そういう安いものが見られるんです[ね]。( 発話緩和 ) 誤用か「んですね」ならば ( 発話緩和 ) ( 発話緩和 ) ( 会話促進 )
- b6 04 私の国は平均二万くらい、毎月もらったんです[ね]。日本と倍くらいです[ね]。だからなんでも高い、すごく高い、日本だと電気製品すごい安いです[ね] ( 発話緩和 ) ??、 ( 発話緩和 ) ( 会話促進 )

### 【資料c】

来日時2000 / 9 (中級 中)

- c9 01 たぶん、季節が[ね]、今が同じ...ああアジアは、ああ同じ町ですけれども、ああできない ( 運用力の限界を表明しているが、結果としては 注意喚起 )
- c9 02 は観光地なんですけど、遠いですから[ね]。( 会話促進 )
- c9 03 実は[ね]、たぶん日本には地震はふつうなんですけど、 注意喚起 )
- c9 04 学生のときひとり に住んでいました[ね]。今はもう... ( 誤用か? 「いたんですね」ならば 発話緩和 )
- c9 05 日本の小説はちょっと難しいです、時間がかかります[ね]。英語から翻訳... ( 会話促進 )
- c9 06 その前の恋人は[ね]、どうして、女性に...最後はご主人はなくなりました。その男性はね どうしましょうか。でも女性が[ね]、その女の人が... ( 注意喚起 )
- c9 07 実は[ね] 地方は、日本は息子さんがとても大切です[ね]。でも は娘さんが...。 ( 注意喚起 ) ( 発話内容確認 )
- c9 08 例えば[ね]、私は兄弟が[ね]4人の... ( 注意喚起 ) ( 注意喚起 )
- c9 09 半分です[ね]。じゃあ、しかたがないです... ( 発話内容確認 )
- c9 09 では明日はできません[ね]。二日間は75%... ( 会話促進 )

帰国時2001 / 6 (上級 中)

- c6 01 帰国は金曜日です[ね]。たぶん、月曜日はすぐ入らなければいけませんと思います。 ( 会話促進 )
- c6 02 木のはっぱが色が変わります。 では緑です[ね]。赤くなってあと落ちます。( 誤用か? 「なんですな」ならば 発話緩和か )

- c6 03 5枚の服をきてそれはめんどくさいと思います。それは季節ですからね。それはなんという?... ( 会話促進)
- c6 04 北海道行ったとき5枚の服をきて、それは楽ではなかったですね。それは... ( 会話促進)
- c6 05 日本では前は大家族ですね。大家族がまだあったから、( 発話内容確認)

【資料d】

- 来日時2000/9 (中級 上)
- d9 01 まりこさん、今日の約束は私は行けなんです。(ええー)(?)(\*ロールプレイ場面)  
帰国時2001/6 (中級 上)
- d6 01 なぜかというと、1週間五日間働いて、もうつかれた、だから土曜日と日曜日休みた  
いですね。でも子供は遊びたい、ん、ですから、いっしょに行きません。( 会話促進)

【資料e】

来日時2000/9 (中級 中) 帰国時2001/6 (上級 下) とともに「ね」の使用例なし。

【資料f】

- 来日時2000/9 (中級 中) 「ね」の使用例なし。  
帰国時2001/6 (上級 下)
- f6 01 サワークリームは日本ではあまり食べられないですね。( 会話促進)
- f6 02 日本のやくざは世界でも有名ですね。( 会話促進)
- f6 03 お客さんは私の家に3カ間過ごしたいなら、私はちょっと反対しますね。<ふーん>そ  
うすると日本人の考え方にちょっとたとえてもいいですね。( 発話緩和)( 会話促進)
- f6 04 私はこの場合では、あまり相談にならない人ですね。( 会話促進)